

Sumitomo Foundation News Vol.20

修復文化財展示事業助成が新たなプログラムとしてスタートします

「修復文化財展示事業助成」を、財団の6番目の新たなプログラムとして実施することになりました。修復した文化財を展示することで、文化財の修復というものを多くの方々に知っていただき、修復の意義を高めることが目的です。特に、対象文化財の地元で展示されることは、受け継がれてきた文化財を地域住民の方に知って頂く良い機会になるものと期待しています。

- ・ 名称 「修復文化財展示事業助成」
- ・ 募集時期 2024年10月～11月
- ・ 助成対象者 ①住友財団の助成により修復された文化財の所有者
②上記①の者から文化財の展示について承認を得た博物館・美術館等の運営者
- ・ 助成金総額 500万円
- ・ 助成件数 5件程度

尚、今年度は、以下の日程で、住友財団の助成により修復された文化財の展示が予定されています(何れも、今年度の「その他助成」の枠内で、展示費用等を助成しています)。

お近くにお越しの際は、ぜひご覧ください。

修復文化財	展示場所 日程	展覧会テーマ
総持寺(和歌山市)所蔵 絹本着色釈迦三尊像(重要文化財) (2019～2021年度助成)	和歌山市立博物館 2024年10月5日(土)～11月24日(日)	和歌の聖地・和歌の浦誕生千三百年 記念「聖武天皇と紀伊国」
乾徳寺(東近江市)所蔵 絹本着色不動明王三童子像 (2021～2022年度助成)	観峰館新館(東近江市) 2024年10月22日(火)～11月24日(日)	「滋賀限定！近江ゆかりの書画～古 写経から近代の書まで～」

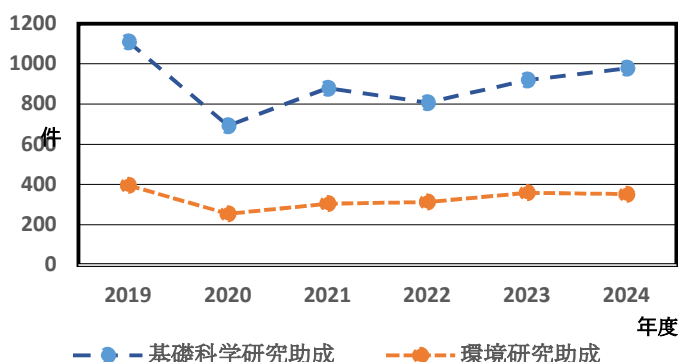
主な活動内容(2024年5月～7月)

5月	2024年度 基礎科学研究助成・環境研究助成募集(4月～6月末まで)
6月	第16回評議員会、第66回理事会、第67回理事会開催
7月	2024年度 環境研究助成選考委員会(第1回)開催

2024年度 基礎科学研究助成・環境研究助成

【応募状況】

応募件数の推移



2024年度の基礎科学研究助成および環境研究助成の募集を4月15日から6月末まで行いました。

今年度の応募件数は、

基礎科学研究助成： 979件(前年比59件増加)
環境研究助成： 353件(同7件減少)

となり、全体としては前年から4%増となりました。

環境研究助成の内訳では、一般研究が330件(同2件減少)、課題研究が23件(同5件減少)となっています。

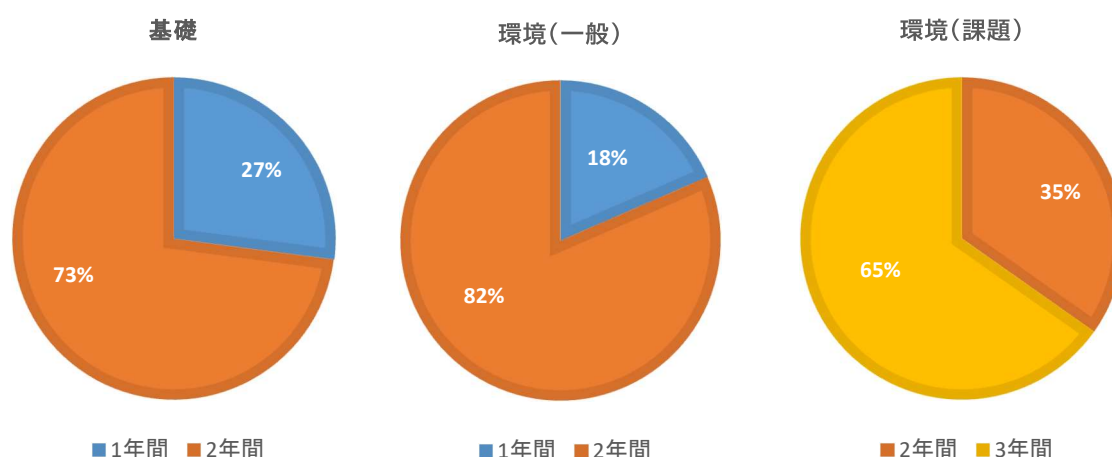
応募件数は、コロナ禍による大幅減少のあった2020年度から両助成ともに回復し、ある程度安定化したことがうかがえます。

【助成期間選択制の導入結果】

助成期間については、基礎科学研究助成は1年、環境研究助成の一般研究は1年、課題研究は2年と定め、助成期間中に希望があれば最長2年間の延長を認める形で運営してきました。しかしながら、毎年実施している助成対象者へのアンケートでは、応募時点で複数年の助成期間を選択できる方が望ましいという声を多くいただいており、その対応が課題となっておりました。

そこで、2024年度からは、各助成にこれまでよりも最初から1年間長い助成期間を設けることとし、基礎科学研究助成と環境研究助成の一般研究は1年または2年、環境研究助成の課題研究は2年または3年の助成期間の中から、応募時に選択できる助成期間の選択制を導入いたしました。

<選択された助成期間の割合>



基礎、環境いずれの助成においても、今回設けた長期の方の助成期間を選択する申請の割合が圧倒的に多くなっており、特に、環境研究助成の一般研究では、長期の助成期間である2年間を選択した申請の割合が80%を超えました。

選択制を導入した初年度の結果だけではありますが、これまでより長期の助成期間に対するニーズの高さを改めて認識するとともに、今回の選択制の導入は、そのニーズに応えたものとして評価いただけるのではないかと考えております。

【米国における日本伝統技術の普及～フリーア・ギャラリー】

海外における日本の伝統的な修復技術の普及については、様々なルートを通じて取り組まれておりますが、米国における一例としてスミソニアン国立アジア美術館に属するフリーア・ギャラリーの『平山プログラム』における取り組みについてご紹介したいと思います。

米国の首都であるワシントンDCの中心部にスミソニアン博物館群があることをご存知の方は多いと思われる。しかし、その一つに国立アジア美術館に属するフリーア・ギャラリー(創立1923年)があり、掛軸、屏風、彫刻など日本の伝統美術の名品を数多く所蔵していることを知らない方は多いかもしれません。

米国の他の大手の美術館、メトロポリタン美術館やボストン美術館のように、日本で所蔵品の展示が行なわれることがないからだと思いますが、これは、実業家チャールズ・ラング・フリーア氏(1854-1919)がコレクションを国に寄贈するにあたり外部へ貸し出しすることを禁じることを条件としたことによるものです。

しかし、フリーア・ギャラリーには、フリーア氏の好みにより収集された多くの名品があり、絵画では特に琳派の作品が知られており、俵屋宗達の「松島図屏風」などは、海外にある日本美術の名品の代表的存在に位置づけられております。

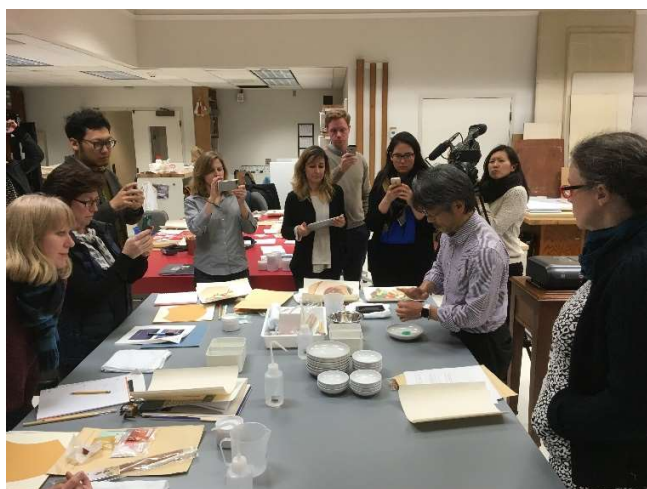
このフリーア・ギャラリーと故平山郁夫画伯の間で1999年『平山プログラム』が発足しました。これは、平山氏の「文化財赤十字構想」における在外日本古美術品の保存修復というミッションに沿って、米国における日本の伝統的な修復技術の普及や人材育成等を図ることを目的に、平山氏から提供された資金を資金源としてワークショップの開催や米国人フェローの受入れなどのプロジェクトが行なわれているものです。

財団ニュース16号(2023年7月発行)において、大英博物館における修復工房である平山スタジオが平山氏の援助により設立されたことを紹介しましたが、米国においては、この『平山プログラム』を通じて現在まで脈々と意志が受け継がれております。

なお、平山氏は、住友財団の文化財維持・修復事業助成の初代の選考委員として立ち上げの礎を築かれた方でもあります。



フリーア・ギャラリー正面入口



膠のワークショップの実演風景

コロナ禍によりワークショップの開催は、数年中断を余儀なくされておりましたが、今年の10月に表具をテーマとしてワークショップが再開される予定です。

左の写真は、2018年に開催された「膠のワークショップ」の実演風景です。日本から専門家を招き、膠の製作過程を学習したうえで実際に膠を作り、使用するというもので、参加者は全米各地から集まり、実務に即したものとして好評を博しました。

また、米国人の大学院卒業生などを対象とするフェローの受入れも継続的に実施されており、次世代を担う人材育成に注力しております。

アジア諸国における日本関連研究助成

アジア諸国における日本関連研究助成プログラムについては、東南アジア諸国からの応募が近年増加しており、2023年度は全体で853件の応募の内、マレーシアとインドネシアの2か国から680件と全体の8割を占める状況にあります。

一方で、東アジア諸国からの応募は低迷しており、韓国は2015年度の55件をピークに減少傾向で、2023年はわずか15件(2022年度比マイナス7件)となりました。コロナ禍前の2019年までは毎年韓国を訪問し、現地の大学などで応募勧奨活動を行っていましたが、コロナ禍後の2020年以降は出張を見合わせておりました。

韓国は例年応募数そのものは多くないものの、優秀な申請が多く、東南アジア諸国に比べ競争倍率が低いとはいえ、ハイレベルな競争が続いております。今般、韓国各地の大学や韓国における日本に関する研究学会などを訪問し、住友財団およびアジア諸国における日本関連研究助成プログラムを紹介し、2024年度の応募を働きかけました。

訪問先(韓国の大学は大学校と表記)

ソウル: ソウル大学校、高麗大学校、延世大学校、
韓国外語大学校
国際交流基金ソウル文化センター
東アジア日本学会理事会(ソウル大学校にて開催)

釜山: 釜山教育大学校

大邱: 慶北大学校



東アジア日本学会理事会でのプレゼン

評議員会・理事会開催

6月3日に、第16回評議員会が、開催されました。選出された新任の評議員・監事は以下の方々です。

評議員 森 重文 京都大学高等研究院 院長・特別教授
監事 高波 博之 公認会計士 元あずさ監査法人理事長

なお、森評議員は基礎科学研究助成の選考委員長就任のため2020年に一度退任され、今回2度目の就任です。

また、「修復文化財展示事業助成」が新しいプログラムとして内閣府に承認されたため、第67回理事会で変更事業計画が決議されました。



年次報告書発刊

この度2023年度の年次報告書を発刊いたしました。また2021年度から始めた電子ブックもリリースし財団ホームページ(以下URL)からアクセスできます。

<https://www.sumitomo.or.jp/annual-report/book2023>

今回の年次報告書では国内文化財修復事例紹介(国宝 琉球国王尚家関係資料)を掲載しています。是非ご覧ください。

[https://www.sumitomo.or.jp/annual-report/book2023/index.html#target/page no=73](https://www.sumitomo.or.jp/annual-report/book2023/index.html#target/page%20no=73)

また「その他助成」のページでは「アジア諸国における日本関連研究助成」関連の報告会、「文化財維持・修復事業醸成」関連の展示支援事業についても報告しています。

[https://www.sumitomo.or.jp/annual-report/book2023/index.html#target/page no=106](https://www.sumitomo.or.jp/annual-report/book2023/index.html#target/page%20no=106)

